

第二学年 指導計画・評価計画

学習の評価、評定、総括方法について

I 評価方法について

令和3年度より完全実施となった学習指導要領の各教科の目標・内容は、誰でもが確実に習得すべき基礎的・基本的なものを示している。このことから、生徒一人一人の学習状況を把握し、各教科の目標・内容に照らして、その実現状況をとらえる評価＝目標に準拠した評価＝絶対評価で行う。

II 「観点別学習状況の評価」について

学習指導要領の目標・内容に対応した評価の観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点)が、指導要録に教科ごとに示されている(右下参照)。この観点別に、各教科担当が評価を算出する。

各教科では評価規準(学習指導要領に基づき各教科で作成する評価の目標)にてらして、その実現の状況を観点ごとに、A・B・Cの3段階で評価する。

※評価規準(～ができる、～がわかる、～に気づく、～の根拠で判断している、～に意欲を持って取り組んでいる、など)

本校では以下の基準で評価する。

		到達度
A	十分満足できると判断されるもの	80%以上
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上80%未満
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

III 評定について

前記 I で示したように、5段階の評定も絶対評価となる。前記 II にある観点別評価を総括的に評価する。

本校では次のとおりに評定した。

		到達度
5	十分満足されると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	90%以上
4	十分満足できると判断されるもの	80%以上90%未満
3	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上80%未満
2	努力を要すると判断されるもの	20%以上50%未満
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

IV 評定の総括的评价について

本校では、評定を総括的に評価する際、それぞれの教科の特性に配慮して、各観点の評価の比重(重み付け)を設定している。

例えば、思考力や表現活動が重視される教科では、「思考・判断・表現」の観点に比重(重み付け)をかけて評価し、また基礎的な知識が重視される教科では、「知識・技能」に比重(重み付け)をかけて評価することになる。

各教科の観点・重み付け

国 語	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
社 会	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
数 学	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
理 科	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
音 楽	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
美 術	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
保健体育	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
技術家庭	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%
英 語	知識・技能 100%	思考・判断・表現 100%	主体的に学習に取り組む態度 100%

* 学年、学期の内容等により多少重み付けが変わることがある。